情報デザイン学科
Department of Information Design

教員・研究室紹介

静岡理工科大学では多様な研究を通して、一人ひとりが持続可能な社会の構築を目指しています。

マネジメント・メソッド研究室

学科長 **林 章浩** 教授
Hayashi Akihiro

■ 学位／MBA（筑波大学）
博士（システムズ・マネジメント）（筑波大学）
博士（ソフトウェア工学）（南山大学）

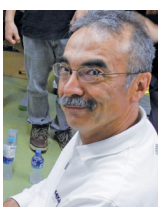
［研究室キーワード］
プロジェクト管理　ソフトウェア品質管理

1992	米国 モトローラ社ページンググループ ワールドヘッドウォータ
1993	NTT本社、NTT研究所、NTTコミュニケーションズ、NTTデータなどNTTグループ
2006	IBMビジネスコンサルティングサービス、日本IBM
2018	現職

不可欠と判断される マネジメントツールの使い方を身につける

インターネットの普及によるグローバル化が進み、当然のようにアウトソーシングがおこなわれる時代になりました。次世代のIT技術者に求められるのは、置かれた状況を正しく把握して、ベストプラクティスを用いたプロジェクトマネジメントができるスキルでしょう。経験則による自己流のやり方ではなく、正しい学問的知識に則ったノウハウが必要となります。プロセスを管理する知識を高め、どの分野でも即戦力プロジェクト・マネージャとして活躍できるスキル育成の方法を研究します。

スポーツ科学研究室



情報学部長 **富田 寿人** 教授
Tomita Hisato

■ 学位／修士（体育学）（順天堂大学）

［研究室キーワード］
運動生理学　体力学

1982	早稲田大学教育学部卒業
1985	順天堂大学大学院体育学研究科修了
1987	早稲田大学教育学部 助手
1991	静岡理工科大学 講師（理工学部）
1997	静岡理工科大学 助教授（理工学部）
2008	静岡理工科大学 准教授（総合情報学部）
2013	現職

子どもたちの健全な発育発達、競技力の向上、中高年者の健康づくりを科学する

運動によって人間の身体がどのように変化するのか。筋肉が太くなる、体脂肪が減少する、酸素の摂取量が増えるなどの様々な変化について、競技成績の向上や健康の改善のために、どんな運動が有効なのかを研究しています。コンピュータを駆使して様々なスポーツの動きの分析（動作解析）をおこない、技術的な上達度や上級者と初心者の動きの違いなども分析しています。オリジナルの筋パワー測定システムは、測定機能に加え、データの保存・再生機能により、過去の自分やライバルと競争することもできます。

社会意識・価値システム研究室

秋山 憲治 教授
Akiyama Kenji

■ 学位／博士（人間科学）（早稲田大学）
文学修士（早稲田大学）

［研究室キーワード］
社会意識　社会調査　価値システム

1986	早稲田大学 助手
1989	早稲田大学大学院文学研究科 社会学専攻博士後期課程満期退学
1991	静岡理工科大学 助教授（理工学部）
2007	現職

人はなぜそう思い行動するのか、そして何を創造するのか？ 社会でつくられ、そして社会をつくる「心と頭」を解明する

SDGs

①社会調査（質問紙調査、聴取調査）による社会意識の研究、②価値システムの社会学的・人間科学的研究、③職業・労働全般の社会学的研究をおこなっています。社会意識とは、若者の情報行動、働くことをめぐる価値観のように、人間の集団や社会全体に現れる意識と行動です。社会意識を解明するため、社会調査の技法も追究しています。また、社会における価値の体系も追究しています。それは、労働の成果、自然の所産、各種の文化に、価値が形成され、変化していく仕組みや、人間生活や社会における価値の動向です。

遺伝情報／人工生命研究室

大楫 弘順 教授
Ohsugi Kojune

■ 学位／博士（理学）（東北大学）

［研究室キーワード］
発生生物学　遺伝子工学
細胞工学　人工生命

1981	東北大学理学部生物学科卒業
1986	東北大学大学院理学研究科博士課程修了（理学博士）
1986	国立精神神経センター神経研究所 研究員
1987	東北大学 助手（理学部）
1994	Univ. of California, Irvine 客員研究員
1999	静岡理工科大学 助教授（理工学部）
2012	現職

コンピュータやロボットは、どこまで生命になりえるか？ そのとき人間は…

SDGs

人間を含め多くの動植物は、卵や種子からひとりでに成体が造られます。これを生物学で「発生」と呼びます。私はもとは発生の魅力に取りつかれた分子生物学者です。近年は生命の本質と人工生命体（ロボットの未来）との関係に心を惹かれ、『生物的な自己組織化による自己修復工学システムの構築』や『ロボットコミュニティに生物的自律能力を持たせたとき、人はどの段階で脅威を感じるか』などの科学研究費補助金に採択されたテーマで、「人・生命」と「ロボットやコンピュータ」との関係の未来像をテーマにした研究を展開中です。

言語学研究室

友次 克子 教授
Tomotsugu Katsuko

■ 学位／文学修士（同志社大学）

［研究室キーワード］
認知言語学　英語学

1990	同志社大学大学院文学研究科 博士後期課程満期退学
1991	静岡理工科大学 講師（理工学部）
2001	静岡理工科大学 助教授（理工学部）
2008	静岡理工科大学 准教授（総合情報学部）
2015	現職

言葉の構造から、人間の認知能力を解明する

SDGs

コーパスとは、言語分析に利用できるように収集され、電子化された言語資料です。地域、時期、話者を限定して言語を集めると、実際に使われている言語の実態を知ることができます。人間は単語の意味だけではなく、（文型や文法と呼ばれてきた）パターンの意味も知っています。パターンは語と語の組み合わせだけでは説明できない意味を持っています。このパターンの性質を調べるのが構文研究です。コーパスを利用して、言語に表れる時間、生物と無生物の差、力や因果関係などを研究しています。

マスコミ研究室

小栗 勝也 教授
Oguri Katsuya

■ 学位／法学修士（慶應義塾大学）

［研究室キーワード］
現代マスコミ論　政治学・政治史

1992	慶應義塾大学大学院法学研究科 政治学専攻博士課程単位取得
1992	静岡理工科大学 講師（理工学部）
2007	静岡理工科大学 准教授（理工学部）
2008	静岡理工科大学 准教授（総合情報学部）
2017	現職

マスコミの報道は問題だらけ？ メディアリテラシーの力で正しい未来を見通す

メディアは時代を映す鏡です。多角的な比較分析により正しい実像を読み取る力（メディアリテラシー）を養えば本当の今の時代が見えてきます。逆にその力がなければ本物と偽物の情報を区別することもできず、情報に流されるだけです。情報の「中身」を正しく分析して活用する力がますます必要とされる時代です。新聞・テレビ・雑誌・インターネット・映画・広告など、マスメディアが発信する情報（メディア情報）を読み解き、必要な情報を的確に整理し、報道内容の差異について比較検証をおこない、社会問題や地域情報、人間と社会への洞察力を研究します。

心理学研究室

本多 明生 准教授
Honda Akio

■ 学位／博士（文学）（東北大学）

［研究室キーワード］
実験心理学　感性工学　災害心理学

2005	日本学術振興会 特別研究員（DC2）
2006	東北大学大学院文学研究科人間科学専攻博士後期課程修了
2006	日本学術振興会 特別研究員（PD）
2006	いわき明星大学人文学部心理学科 研究助手
2011	東北大学電気通信研究所 研究支援者
2012	東北福祉大学総合福祉学部福祉心理学科 助教
2014	山梨英和大学人間文化学部人間文化学科 准教授
2014	山梨英和大学大学院人間文化研究科臨床心理学専攻 准教授
2014	東北大学電気通信研究所 共同研究員
2018	現職

社会に潤いと安らぎをもたらす心理学的研究を目指して

SDGs

「人間とはどのような存在か」「人間は現代社会とどのように相互作用しているのか」について心理学的手法を用いて幅広く研究しています。例えば、視覚や聴覚、体性感覚などの複数の感覚情報がどのように統合されるのか、映像コンテンツの臨場感や迫真性はどうすれば高めることができるのか、災害などの非常事態に強い人にはどのような特徴があるのか、どうすれば精神的健康を高めることができるのか、などを研究してきました。最近は高齢者に関する心理学的研究や社会問題に関する実態調査もおこなっています。

応用言語学研究室

谷口 ジョイ 准教授
Taniguchi Joy

■ 学位／博士（学術）（東京大学）

［研究室キーワード］
社会言語学　方言学
バイリンガリズム

2012	ロータリー国際親善奨学生（メルボルン大学）
2014	東京大学大学院総合文化研究科 言語情報科学専攻博士課程満期退学
2014	静岡英和学院大学 講師（人間社会学部）
2017	東京大学大学院総合文化研究科 言語情報科学専攻 博士号取得
2017	静岡英和学院大学 准教授（人間社会学部）
2019	現職

「ことば」は社会の中でどのように変化するのか

SDGs

言語を社会との関わりから捉え、進行中の言語変化を可視化する研究をおこなっています。主に、静岡研究に関する大規模調査を行い、どのような語や表現が衰退傾向にあるのか、あるいは、どういった変化が生じているのかについて調査しています。消滅や衰退の危機にある静岡・井川方言および新居方言の記録・保存にも取り組んでいます。他にも、複数言語を使用する子どもの言語使用など、バイリンガリズムに関わる研究もしています。

コミュニケーションデザイン研究室

松田 崇 准教授
Matsuda Takashi

■ 学位／修士（芸術）（東亜大学）

［研究室キーワード］
デザイン学　コミュニケーションデザイン
ヴィジュアルコミュニケーション

1999	武蔵野美術大学短期大学部美術科卒業
1999	東映アニメーション研究所 非常勤講師
1999	武蔵野美術大学 特別講師
2001	武蔵野美術大学 非常勤講師
2016	静岡理工科大学 講師（情報学部）
2021	東亜大学通信制大学院総合学術研究科 デザイン専攻修了
2021	現職

豊かなコミュニケーションの創造をめざして

SDGs

印刷物や映像・インターネットなど、人々のコミュニケーションは多様化しています。それとともに、コミュニケーションが持つ問題も多彩な複雑性を抱えるようになったと捉えています。そこで、本研究室ではコミュニケーションが抱える課題を解決することに取り組んでいます。具体的には、印刷ならびにWebメディアを中心にコミュニケーションデザインを実践しています。

応用認知行動科学研究室

紀ノ定 保礼 准教授
Kinosada Yasunori

■ 学位／博士（人間科学）（大阪大学）

［研究室キーワード］
認知心理学　交通心理学
人間工学

2009	同志社大学文化情報学部卒業
2014	大阪大学大学院人間科学研究科 博士後期課程修了
2014	大阪大学大学院人間科学研究科 助教
2014	株式会社国際電気通信基礎技術研究所 連携研究員
2017	静岡理工科大学 講師（情報学部）
2022	現職

日常・現実場面における、ヒトの認知や行動のメカニズムを理解する

SDGs

交通事故、不注意、覚醒の低下、商品選択時の迷い、ユーザビリティ…。我々は日常・現実場面において、多くの安全性や快適性の問題に直面します。本研究室では、実験的統制と生態学的妥当性を両立させた認知心理学的実験により、これらの問題の背後にある、認知や行動のメカニズムをモデル化することを目指します。また、構築したモデルに基づいて、これらの日常・現実場面における問題を解決するための、教育的・工学的対策を考案することを志向します。

先端アート研究室

伊藤 明倫 准教授
Ito Akihito

■ 学位／修士（芸術工学）
（名古屋市立大学）

［研究室キーワード］
映像インスタレーション
メディアアート　メディアデザイン

2002	コンピュータ学園HAL 非常勤講師
2003	大同大学 非常勤講師
2004	中京大学 非常勤講師
2006	名古屋デザイナー学院 非常勤講師
2007	名古屋芸術大学 非常勤講師
2008	名古屋学芸大学短期大学部 非常勤講師
2011	名古屋市立大学 大学院 芸術工学研究科博士前期課程 修了
2014	名古屋学芸大学 非常勤講師
2014	愛知学泉短期大学 非常勤講師
2015	名古屋市立大学 研究員
2018	金城学院大学 非常勤講師
2020	名古屋文理大学 非常勤講師
2022	現職

領域を超えたハイブリッドな表現と思考

様々な情報があふれる現代社会において、アートはそれらを結びつけたり分解したり、新たな視点を与えることができます。また、デザインは様々な問題に対して情報を整理することで、解決から提起まで幅広いアプローチができます。本研究室では、映像メディアやメディア・アート的手法を基本としながら、コンセプトを形にするために必要な思考や手法を柔軟に取り入れ、組み合わせて、未来志向の創作を目指します。

感情神経科学研究室

渡邊 言也 准教授
Watanabe Noriya

■ 学位／博士（工学）（玉川大学）

［研究室キーワード］
認知神経科学　生理心理学
脳の計算理論　ストレスシステム

2010	日本学術振興会 特別研究員（DC2 玉川大学）
2012	玉川大学 工学研究科 脳情報専攻 博士課程後期 単位取得退学
2012	独立行政法人 情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター 研究員
2014	日本学術振興会 特別研究員（PD 名古屋大学）
2015	米国Rutgers大学 Psychology department 客員研究員
2017	日本学術振興会 海外特別研究員（米国Rutgers大学）
2019	高知工科大学 総合研究所 助教
2023	現職

感情とストレスの神経科学的基盤の理解

SDGs

どんなに理性的で客観的に行動しようとも、我々の行動は気づかぬうちに感情に影響されています。感情による色づけは、時には判断を早めたり、学習効果を高めたりしますが、別の時には記憶を歪めたり、能力を低下させることもあるでしょう。本研究室では、人間の行動の背後にある感情やストレスの影響を、脳波計やMRIによる脳機能計測、眼球運動・心拍などの生理計測、さらに計算理論を用いて研究しています。

言語科学研究室

臼田 泰如 講師
Usuda Yasuyuki

■ 学位／博士（人間・環境学）
（京都大学）

［研究室キーワード］
相互行為分析　語用論
コーパス言語学

2014	日本学術振興会特別研究員（DC2）
2016	京都大学大学院人間・環境学研究科 博士後期課程修了
2016	国立国語研究所音声言語研究領域 プロジェクト非常勤研究員
2023	現職

人間同士の会話はどのように成り立っているのか

SDGs

私たちは普段、言葉や身振りなどを使ってごく普通に会話をしています。しかしながら、そのやりとりを詳細に観察すると、ごく微細な表出と理解の繰り返しによって成り立っていることが見えてきます。本研究室では、ビデオデータや会話コーパスを利用した会話の詳細な観察に基づいて会話の仕組みの研究をしています。また、会話を介して行われるさまざまな社会的活動における会話の研究も行います。